

令和 7 年度春期 ネットワークスペシャリスト試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT 人材教育研究部 2025,7,3

4 月 20 日（日）に行われた令和 7 年度春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。IPA から発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、ネットワークスペシャリスト試験の分析コメントをお知らせします。

■ネットワークスペシャリスト試験（NW）

〔令和 7 年度春期 ネットワークスペシャリスト試験 統計情報〕

応募者	17,297 人
受験者	11,948 人
合格者	2,126 人
合格率	17.8%

令和 7 年度春期のネットワークスペシャリスト試験の合格率は 17.8%で、前回の 15.4%に対して 2.4%高くなりましたが、平成 21 年以降の現在の試験制度になってからの最も高い合格率です。

次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

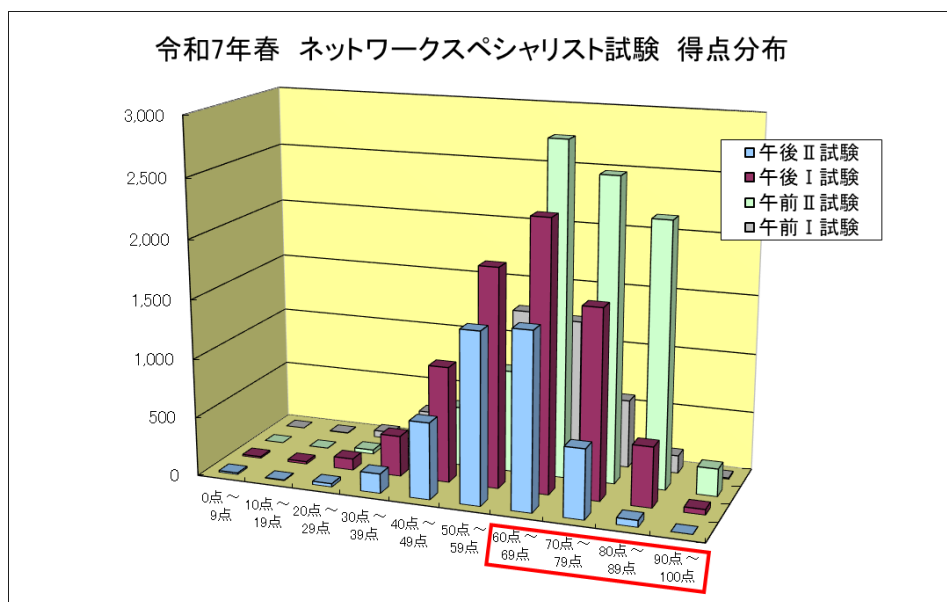
〔令和 7 年度春期 ネットワークスペシャリスト試験 スコア分布〕

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0 点 ～ 9 点	0	0	14	14	
10 点 ～ 19 点	4	1	21	6	
20 点 ～ 29 点	57	35	97	28	
30 点 ～ 39 点	284	111	345	165	
40 点 ～ 49 点	806	505	980	645	
50 点 ～ 59 点	1,268	866	1,845	1,438	
60 点 ～ 69 点	1,221	2,817	2,275	1,485	
70 点 ～ 79 点	581	2,554	1,595	584	
80 点 ～ 89 点	151	2,231	509	57	
90 点 ～ 100 点	10	234	46	0	
計	4,382	9,354	7,727	4,422	2,126
対前試験比率		213.5%	82.6%	57.2%	48.1%
午前Ⅰ免除者（概数）	7,566	63.3%			

合格者数	2,126	採点者数の割合	合格者数との差
------	-------	---------	---------

午前Ⅰ 60 点以上合計	1,963	44.8%	-163
午前Ⅱ 60 点以上合計	7,836	83.8%	5,710
午後Ⅰ 60 点以上合計	4,425	57.3%	2,299
午後Ⅱ 60 点以上合計	2,126	48.1%	0





午前Ⅰ試験免除で受験する人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回ネットワークスペシャリストの午前Ⅰ試験免除者は概算で7,566人（63.3%）いて、約6割の受験者が午前Ⅱからの受験となりました。ほぼこの比率で最近は推移しています。

午前Ⅰ試験で基準点（60点）以上の人は1,963人（受験者の44.8%）で、前回の54.3%から約10%低くなっています。問題内容が前回（令和6年秋）と比べて難しかったことが理由といえます。

午前Ⅱ試験で基準点以上の人は7,836人（受験者の83.8%）となっており、こちらは前回の80.5%から少し高くなっていますが、解きやすい問題が多かったことが理由と考えられます。

午後Ⅰで基準点（60点）以上取れた人は採点者数の57.3%で、前回の55.0%から少しだけ高くなっています。

午後Ⅱで基準点（60点）以上取れた人は採点者数の48.1%で、こちらも前回の44.3%よりも少し高くなっています。

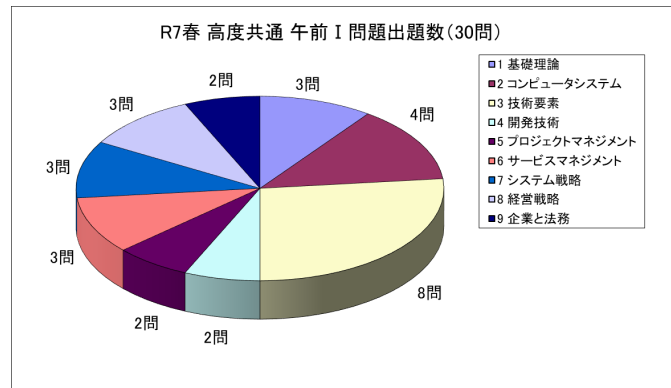
■令和7年度春期 ネットワークスペシャリスト試験の出題内容について

〔午前Ⅰ試験（高度試験の共通知識問題）〕 30問出題／30問解答、50分

高度試験で共通して出される午前Ⅰ試験の30問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験

(AP) の午前試験 80 問の中から選ばれていて、テクノロジー系 17 問 (57%) マネジメント系 5 問 (17%) ストラテジ系 8 問 (26%) という出題比率です。

午前 I 試験には免除制度がありますが、高度試験を受ける人の約 4 割が午前 I 試験から受験しています。今回の午前 I 試験で 60 点以上の得点で突破できた人は高度試験全体で 44.6% いましたが、これまでは

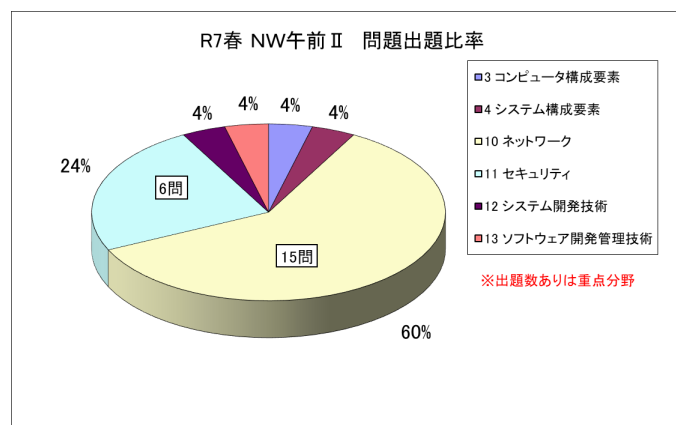


5~6 割の突破率なので、今回の試験が難しかったことを示しています。出題範囲が広いため問題を難しく感じる人がかなり多く、最初の午前 I 試験でつまづかないように、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識をつけていく必要があります。

- ・今回の午前 I 試験は、6 割が過去問題でしたが、文章問題が減って、難しい問題も含む考察問題が増え、前回より解きづらく難しい試験だったといえます。
- ・重点分野のセキュリティの出題数は前回と同じ 4 問で、最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は 8 問で前回の 3 問から大きく増え、このことも試験が難しかった理由といえます。

〔午前 II 試験（専門知識問題）〕 25 問出題／25 問解答, 40 分

午前 II 試験で、ネットワークとセキュリティの専門知識の出題数は 15 問と 6 問の合計 21 問で、前回と同じでした。新傾向問題は 8 問 (前回は 6 問), 過去問題は従来と同じで約 7 割ありましたが平易な問題が多く、新傾向問題も特に多くなかったことから、全体として解きやすい試験だったといえます。



過去のネットワークスペシャリスト試験問題の出題は 7 問（前回 13 問）で例年より少なく、令和 5 年の問題が 4 問と最多で、他は令和 4 年、3 年、元年が各 1 問と分散していました。2 回前・3 回前の過去問題は重点的に理解しておく必要があります。

〔午後Ⅰ試験（記述式）〕 3 問出題／2 問解答，90 分

今回の午後Ⅰ問題の概要として、前回と同様に新しい技術に着目した問題よりも、従来から出題されている技術項目を中心とした問題が多かったといえます。問 1 は「ルータの更改」について、問 2 は「ネットワークの改善」について、問 3 は「セキュア Web ゲートウェイの導入」について理解が必要な問題でしたが、問 2 と 3 には少し難しい設問がありました。他の高度試験と比べて 1 問に含まれる設問数が多いので、幅広く専門知識を理解する必要があります。

〔午後Ⅱ試験（記述式）〕 2 問出題／1 問解答，120 分

今回の午後Ⅱ問題の内容は、問 1（12 ページ）「社内ネットワークの IPv6 対応」が IPv6 のアドレス体系と実装、NDP、SLAAC、名前解決、経路制御などの知識について理解が必要な問題で、問 2（11 ページ）「IoT システムの設計」は、LTE-M などの LPWA 通信技術、CoAP、DTLS などの知識の理解が必要な問題でした。

問題の分量が 10 ページ以上にわたり、略語を多用した文章になっていることが多いので、問題の全体像を的確に把握してから、各設問の解答を考えていく必要があります。また、ネットワークセキュリティを含むネットワーク技術全体に関する専門的な知識を学習を通じてしっかり理解する必要があります。

